

2024年 平和旬間

社会活動部 岡本 幸代

去る6月22日(土)に平和旬間のイベントとして草津教会で行われた「愛と平和のコンサート」。残念ながら参加出来なかった方も多くおられると思いますので、少しご報告させていただきます。

第一部の被爆者体験談で語って下さったのは、元広島大学学長で現役の耳鼻科医、そして国際的なオペラ歌手という原田康夫先生、御年93歳ですが、広島より遙々草津教会までしっかりと足取りでお越し下さいました。

講話の中でちらっとお話されました先生の長寿の秘訣は、味噌汁と酢キャベツのおひたしのようなものを毎朝かさかさ食す、と記憶しております。先生が広島一中の中学2年生の時に原爆投下があったそうです。8月6日はたまたま担任の先生の都合で学年全員がお休みとなり、学校へは登校せず、呉に帰っていたため、直接の被爆は免れ、2年生は全員生存できたものの、学校で疎開作業中の3年生は全員死亡されたとのことでした。しかし先生もその後徒歩で広島入りし、二次被爆を受けられました。原爆の熱線・爆風・初期放射線、残留放射線(死の灰)がヒトの体に与える症状、、、即死を免れたとしても、体中のあらゆる細胞は破壊され、皮膚はただれ落ちる。肉体は体液が流れ出し、崩壊する。後からどれだけ栄養を補充しても、新しい細胞も血液も作られず、死を待つだけとなる。

原爆は人類を滅亡へと導くと先生は断言されています。本当に恐ろしいことです。

平和を守るために、この恐怖をもっともっと若い世代に語り次いでいきたいものです。

第二部のコンサートでは、オペラ歌手の原田先生と小立花神父様が館内中に響き渡る美しい歌唱を披露されました。楽曲の日本語訳を見なくては、歌詞の意味はわからないのですが、観客の皆さんは、とにかく力強さと美しい声に魅了され、ストレスを忘れ、楽しく平和な気持ちになったのではないのでしょうか。

当日会場では平和のメッセージを分かち合い、素敵な平和のメッセージボードが完成しました。

私は、滋賀ブロックでの行事に初めて唐崎教会から参加しましたが、どこの教会の方もとても優しく、色々とお話しできて、嬉しかったです。会場となった草津教会の接待、サポートも素晴らしく、年輩の方がテキパキと動いて下さったことに感謝でした。

余談ですが、休憩中に年輩の信者の方が、こぼした話し、「あたし神父様に叱られながらも色々お手伝いしているの、本当はやりたくないのよ、、、でも私が死んだらお墓に入れてもらわないと、ほっとかいたら困るでしょ、だからその時のためだけに頑張って尽くしているのよ。」とニコニコしながら仰られたことが印象的で、なんだかほっこりした平和な1日となりました。

